

お知らせ

第19回支部定期大会

【日時】5月21日(日)

10時から

【場所】朝霞市産業文化センター

朝志和

発行所

埼玉土建一般労働組合朝志和支部
〒351-0007 朝霞市岡3-24-37
TEL048-462-1303 FAX048-463-7059
《発行人》朝志和支部教育宣伝部
第215号 定価30円
(機関紙代は組合費に含まれています)
MAIL asashiwa@saitama-doken.or.jp

多くの仲間の奮闘により

支部目標125人 目標達成

春の拡大月間打上式



全分会に拡大月間の表彰が行われ＝朝霞市民会館

飲食形式の打上式 皆さん笑顔で歓談

春の拡大月間打上式が4月27日の19時から、朝霞市民会館にて49人の仲間が参加し開催されました。コロナ禍以降長らく拡大月間の打上式は分会代表の結果報告のみとなっていました。久しぶりの飲食を伴う打上式となりました。

栗田副支部長を司会に丸山支部長から「今回の春の拡大月間は事業所からの加入も少なく苦しい拡大月間でした。多くの仲間の奮闘により4月26日の統一行動終了後に支部目標の125人の達成

ことができました。全ての参加して頂いた仲間に敬意を表します」とあいさつがありました。続いて名雪組織部長より今拡大月間の経過報告があり、最終到達は目標達成となりました。25人の到達を確認しました。上菌書記長より「組織内事業所からの新規加入が57パーセントを占めました。しかし、2年連続で組織数は減少しています。新たに加入した仲間の組合業務の活用を進め、定着活動に生か

すことが今後の課題となつていきます」と拡大月間の特徴の報告があり、田澤副支部長の乾杯で歓談となりました。久しぶりの皆さん笑顔で楽しそうに歓談していました。

表彰式では名雪組織部長から全分会と主婦の会、青年部が表彰お粉割れ、全員で記念撮影をおこなったあと、ひとこと発言となりました。和光北分会亀田分会長から「最後まで苦勞した拡大月間でした。仲間の頑張りで目標達成できました。ありがとうございます」とあいさつがありました。

○×クイズのあと栗田副支部長から「組織の減少が続いているので、拡大月間が終わっても対象者がいたら声掛けをお願いします」と閉会あいさつがあり、西次世代対策部長による団結がんばろうで終了となりました。

者がいたら声掛けをお願いします」と閉会あいさつがあり、西次世代対策部長による団結がんばろうで終了となりました。

第94回北足立南部地区メーデーが10時から朝霞中央公園にて、23団体267人が参加し開催されました。コロナの影響により集会、デモ行進を行ったのは4年ぶりとなります。

北足立南部地区労務事務局の南さんが司会を行い、主催者を代表して松本実行委員長よりあいさつがありました。祝電・メッセージ紹介では4市から市長のメッセージを頂いたことと、代表して埼玉連からのメッセージを読み上げました。

続いて新座市生健会、

第94回北足立南部地区メーデーが10時から朝霞中央公園にて、23団体267人が参加し開催されました。コロナの影響により集会、デモ行進を行ったのは4年ぶりとなります。

化学研究時労組から活動報告があり、壇上に立つた藤原副支部長から「国は設計工事労務単価という公共工事における賃金基準について、実に11年連続して新たな労務単価を全国平均2万2227円、2012年度比では65パーセント増の伸びが示されました。しかし、問題は現場労働者の賃金にまで『引上げ』が影響していないことです。埼玉土建の賃金実態調査では、『労働者で16300円』と6000円弱の開きがあります」と報告

が、引き続き参加団体によるリレートーク、スローガム確認、集会宣言の採択、団結がんばろうが行われデモ行進となりました。4年ぶりに行われたメーデーのデモ行進のシユプレヒコールは、朝霞の街に響き渡りました。



23団体、260人が参加し＝朝霞中央公園



49人の仲間が参加し、歓談を

前進

埼玉土建一般労働組合朝志和支部の一員として、様々な建設現場で働いています。しかし、ただ働くだけではなく、自分たちが所属する組合の意義や役割について理解し、組合員としての自覚を持つことが重要です。▼組合員としての自覚とは、単に組合に加入しているだけではなく、自分たちが組合員であることの責任や義務を理解し、自分たちが組織として力を持つことの重要性を認識することです。▼しかし、組合員としての自覚を持つことは簡単ではありません。一人ひとりが忙しい仕事や家庭生活、自分なりの問題を抱えている中で、組合活動に参加することは時間や労力がかかります。▼組合員であることは自分自身だけでなく、組合に所属する全員やその家族、そして社会全体にとってもプラスになります。組合員としての自覚を持ち、積極的に組合活動に参加し、力を合わせて労働条件の向上や権利の実現に向けて取り組むことが、私たちの未来につながる大切な行動だと考えます。

